**■科目：看護研究　第１回**

**■テーマ**

看護研究の意義と役割を理解する

**■目的**

看護研究の定義や目的、臨床との関係性を理解し、研究の必要性を考察できるようにすることを目的とする。

**■目標**

1. 看護研究の定義と目的を説明できる。
2. 臨床実践と看護研究の関係を理解できる。
3. 看護研究とEBPの違いと関連性を理解できる。
4. 実際の看護研究の事例から研究の意義を考察できる。

**■授業構成**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **時間配分** | **内容** | **指導方法** |
| 15分 | ガイダンスとして授業の目的や今後の展開を説明し、看護研究に対する学生のイメージを共有する | 講義 |
| 20分 | 看護研究の定義（科学的探究としての看護研究）とその目的（看護実践の質向上、対象のQOL向上など）について具体例を交えて解説する | 講義 |
| 15分 | 臨床現場での看護実践と看護研究との関係性（研究が実践を支える構造、臨床での疑問から研究が生まれるプロセス）を図示しながら考察する | 講義・ペアワーク |
| 15分 | Evidence-Based Practice（EBP）の概念を紹介し、研究との違いや関連性を具体的に説明する（エビデンス・臨床判断・患者の価値観の三要素など） | 講義 |
| 20分 | 看護研究の実例（看護学術雑誌掲載の論文や実際の事例）を紹介し、どのように研究が臨床の改善に寄与しているかをグループで検討・共有する | 講義・ディスカッション |
| 5分 | 本日の学びを振り返り、次回の授業内容（研究テーマの設定）について予告する | 講義 |

**第1回　看護研究とは何か**

**１．本日の目標（ねらい）**

**（１）看護研究の定義と目的を説明できるようになる**

* 「看護研究とは何か？」について自分の言葉で説明できる
* 看護研究が看護の質向上や患者のQOL向上にどのように役立つのかを理解する

**（２）臨床実践と看護研究の関係を理解する**

* 日々の看護実践と研究がどのように結びついているかを具体的に考える
* 臨床現場の疑問が研究の出発点になることを理解する

**（３）看護研究とEBP（Evidence-Based Practice）の違いと関連性を理解する**

* 「研究」と「実践（EBP）」の役割の違いを整理する
* 科学的根拠（エビデンス）がどのように現場に応用されるかを学ぶ

**（４）実際の看護研究の事例から、研究の意義や役割を考えることができる**

* 論文や事例を通して、看護研究が臨床に与える影響を具体的に捉える
* 「研究って実際に役に立つの？」という疑問に対する答えを見つける

**２．看護研究の定義と目的**

**（１）看護研究とは**

看護に関する現象を**科学的に解明**し、**より良い看護実践**に結びつけることを目的とした、**体系的な探究活動**である。

例：患者の不安に関する要因を調べ、ケアのあり方を見直す研究
例：褥瘡予防ケアの効果を比較検証する研究

**（２）看護研究の主な目的（例）**

|  |  |
| --- | --- |
| **目的** | **内容の具体例** |
| 看護実践の質の向上 | 根拠に基づいたケアを提供し、安全で効果的な看護を実現する |
| 患者のQOL（生活の質）向上 | 患者のニーズに合ったケア方法を開発し、満足度や生活機能を改善する |
| 臨床現場の課題解決 | 日々の業務やケアの中で生じる問題（例：退院支援の遅れ、感染対策の徹底など）に対して、根拠をもって対策を立てる |
| 看護師の意思決定支援 | データやエビデンスに基づいて判断・選択できる力を養い、現場での判断を助ける |

**３．臨床実践と看護研究の関係**

**（１）臨床と研究は“つながっている”**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **臨床実践（現場）** | **⇄** | **看護研究（探究活動）** |
| 日々のケアの中での「気づき」「疑問」 | → | 研究のテーマや課題設定になる |
| 実践上の課題（例：褥瘡の発生率が高い） | → | 要因分析や効果的ケアの研究が始まる |
| 研究で得られた結果・知見 | → | 新たなケア方法や看護計画の根拠になる |

**（２）看護師にとっての研究の意義**

* **「なぜこのケアを行うのか？」に答えられるようになる**
* **経験や勘だけに頼らず、根拠に基づいた判断ができる**
* **研究を読み取る力があると、最新の知見を現場に活かせる**

**４．EBP（Evidence-Based Practice）との違いと関連**

**（１）EBPとは何か**

EBP（Evidence-Based Practice）とは、以下の**3つの要素**を統合して、臨床判断を行う**実践のための意思決定プロセス**である。

**🔹 EBPの三要素**

1. **科学的根拠（エビデンス）**
　→ 研究から得られた信頼できる知見
2. **看護師の専門的知識・技術**
　→ 経験・判断力・スキルなど
3. **患者の価値観・希望**
　→ 本人や家族の思い・生活背景など

**（２）看護研究との違い**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **項目** | **看護研究** | **EBP（Evidence-Based Practice）** |
| 目的 | エビデンスを生み出す | エビデンスを使って意思決定する |
| 活動の場 | 大学・研究機関、臨床現場など | 臨床現場（実践の場） |
| 対象 | 特定の課題や仮説の検証 | 個々の患者へのケアの選択 |
| 役割 | 実践の根拠を提供する | 実践で判断・行動に活かす |

**（３）共通点と関連性**

* **どちらも「質の高い看護」を提供するために不可欠な要素である**
* 看護研究が生み出したエビデンスは、EBPの判断材料として活用される
* EBPを実践するには、看護研究の結果を正しく読み取る力も必要である

**５．看護研究の実例紹介**

**実例①：学術雑誌掲載の研究論文**

🔹 **テーマ例**
「高齢者の転倒予防に対する看護介入の効果」

🔸 **研究の概要**

* 高齢患者の夜間転倒を減らすために、照明の工夫やトイレ誘導の時間設定を見直す看護介入を実施
* 介入前後で転倒発生率を比較し、効果を統計的に検証

🔸 **臨床への活用**
→ 効果的な転倒予防策として、ケア計画に取り入れられるようになった

**実例②：病院内での実践報告（現場発の研究）**

🔹 **テーマ例**
「退院支援プロセスの見直しに関する実践報告」

🔸 **研究の概要**

* 退院支援がうまく進まず、再入院や混乱が生じていた
* 退院カンファレンスの導入や、地域連携パスの活用によって支援体制を整備

🔸 **臨床への活用**
→ 退院支援の質が向上し、患者・家族の満足度も高まった

**共通点：臨床の「現場の課題」から出発している**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **出発点** | **実例** | **活用先** |
| 臨床の困りごと・気づき | 転倒の多さ、退院支援の課題 | 看護の質の向上、ケア改善につながる |

ポイント：看護研究は“誰か特別な人”が行うものではなく、「現場の気づき」をもとに誰もが取り組める

**６．まとめ**

**看護研究は、実践と深くつながっている**

* 日々の看護実践と研究は切り離されたものではなく、**相互に影響し合う関係**にある
* 現場での課題や疑問から、研究が始まり、研究の成果が実践に活かされる

**自分の関心や臨床での気づきが、研究の「種」になる**

* 「なぜこの患者は…？」「もっとよい方法はないか？」という問いから研究は始まる
* 小さな違和感や疑問が、将来の看護を変える大きな一歩になる

研究は“特別なこと”ではなく、**日々の看護から生まれるもの**である

**復習ワーク：第1回「看護研究とは何か」（全10問）**

**【問題1】次のうち、看護研究の目的として適切でないものを1つ選びなさい。**

1．看護実践の質を向上させるため
2．患者のQOLを高めるため
3．医師の業務量を減らすため
4．臨床現場の課題を解決するため

**【問題2】Evidence-Based Practice（EBP）に関する説明として正しいものを1つ選びなさい。**

1．EBPとは、看護研究の手法そのものである
2．EBPは患者の価値観は考慮しない
3．EBPは看護師の経験と科学的根拠をもとに実践判断を行う枠組みである
4．EBPは主に研究機関でのみ使用される

**【問題3】看護研究とEBPの違いについて、簡単に説明しなさい。（記述）**

**【問題4】次の文の（　）に入る語句として最も適切なものを選びなさい。**

看護研究は、（　　　）での気づきや疑問から始まり、研究結果は実践に活かされる。
1．教室
2．臨床現場
3．図書館
4．管理職の意見

**【問題5】以下の実例のうち、「病院内の実践報告」として適切なものを1つ選びなさい。**

1．高齢者の転倒予防に関する文献レビュー
2．退院支援プロセスの見直しに関する実践報告
3．看護師のストレス調査の統計分析
4．褥瘡予防に関する国内外の研究動向

**【問題6】次の記述のうち、看護研究の特徴として正しいものをすべて選びなさい。（複数回答）**

A．仮説を立てて検証する体系的な活動である
B．臨床の実践とは無関係に行われる
C．患者の生活の質向上を目的とすることがある
D．結果はすぐに政策に反映されるものではない

**【問題7】EBPの構成要素に含まれないものはどれか。**

1．科学的根拠（エビデンス）
2．看護師の専門的判断
3．患者の価値観や希望
4．研究費用の規模

**【問題8】次の文章が正しければ○、誤っていれば×を答えなさい。**

「看護研究は主に大学教員や研究者が行うものであり、臨床の看護師が関わることはない。」

**【問題9】次の空欄を埋めなさい。（記述）**

「看護研究は、\_\_\_\_\_\_\_\_\_\_の課題や疑問をもとに研究テーマが設定され、ケアの質向上に役立てられる。」

**【問題10】以下の内容は、看護研究またはEBPのどちらに当てはまるかを答えなさい。**

「患者が転倒した時間帯や環境条件を調査し、リスク要因を分析する」
→（　　　　　）

**解答と解説**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **問題** | **解答** | **解説** |
| 1 | 3 | 医師の業務軽減は主目的ではないため不適切 |
| 2 | 3 | EBPは根拠＋経験＋患者の価値観を重視する |
| 3 | 看護研究はエビデンスを生み出す活動であり、EBPはそのエビデンスを使って臨床判断する枠組みである | 記述のため、要点が入っていれば正解 |
| 4 | 2 | 看護研究の出発点は臨床現場の気づき |
| 5 | 2 | 「実践報告」は病院での取り組みを表す |
| 6 | A・C・D | Bは誤り（看護研究は臨床と関わる） |
| 7 | 4 | 研究費用はEBPの構成要素ではない |
| 8 | × | 臨床の看護師も研究に関わることができる |
| 9 | 臨床現場（または「日常の実践」「現場」など） | 出発点が臨床であることが分かれば正解 |
| 10 | 看護研究 | 調査・分析してエビデンスを得る活動は研究に該当する |

**事例演習：看護研究の基礎理解を深める（全７問）**

あなたは急性期病棟の看護師である。最近、病棟内で高齢患者の夜間転倒が増えていることに気づいた。
転倒事故の多くは、患者が夜間にトイレに行く際に発生している。照明が暗く、動線に障害物もあるため、転倒のリスクが高いと考えられる。
現場では「夜間の巡回回数を増やす」「照明の改善」などの対策が話し合われているが、明確な根拠や計画はまだ示されていない。
あなたはこの問題に対して、看護研究の視点でアプローチしようとしている。

**【設問1】**

この事例のように、臨床現場での「気づき」や「疑問」は看護研究においてどのような役割を果たすか？次の中から正しいものを選びなさい。

1．看護研究の出発点となる
2．看護研究とは関係がない
3．研究結果を否定する根拠となる
4．研究テーマに関係するが主ではない

**【設問2】**

この事例をもとに、具体的な「看護研究のテーマ」として最も適切なものはどれか？

1．夜間の患者転倒防止における照明改善の効果検証
2．看護師の夜勤ストレスと転倒事故の関係
3．高齢者の排泄行動の倫理的考察
4．退院支援に関する看護師の意識調査

**【設問3】**

看護研究とEBPの違いについて、次の中から最も適切な説明を選びなさい。

1．看護研究は実践のための意思決定枠組みであり、EBPはエビデンスを生み出す活動である
2．看護研究はエビデンスを生み出す活動であり、EBPはそのエビデンスを臨床に活かす枠組みである
3．看護研究もEBPも同じ意味であり、使い分けはない
4．EBPは看護師の感覚を重視し、看護研究は科学的根拠を無視する

**【設問4】**

この事例で「EBP」を実践する際に考慮すべき３つの要素を挙げ、それぞれ具体的に説明しなさい。

**【設問5】**

以下の看護研究の目的の中から、この事例に最も当てはまるものを選びなさい。

1．患者のQOL向上
2．看護師のキャリアアップ
3．医療費削減
4．看護師の勤務時間短縮

**【設問6】**

次の文が正しければ○、誤りなら×を答えなさい。
「看護研究は臨床の現場での課題を科学的に調査し、問題解決を目指す体系的な探究活動である。」

**【設問7】**

この事例の問題を解決するために、まずあなたが行うべき行動として適切なものを3つ挙げなさい。

**【解答例】**

**【設問1】**

**解答：1．看護研究の出発点となる**
*解説：* 看護研究は臨床の疑問や課題（気づき）から始まる体系的な活動である。

**【設問2】**

**解答：1．夜間の患者転倒防止における照明改善の効果検証**
*解説：* 具体的で現場課題に即したテーマであり、効果を検証する研究として適切である。

**【設問3】**

**解答：2．看護研究はエビデンスを生み出す活動であり、EBPはそのエビデンスを臨床に活かす枠組みである**
*解説：* 看護研究は「科学的根拠を作る」活動、EBPは「それを活用し実践する」活動である。

**【設問4】**

**解答例：**
1．科学的根拠（エビデンス）
　→ 文献や既存研究の転倒防止策の有効性データなどを調査する。
2．看護師の専門的判断
　→ 夜間の現場経験や危険と感じる場所の知識を活かしケア計画を立てる。
3．患者の価値観や希望
　→ 夜間は自立したい、なるべく介助を受けたくないなど患者の気持ちを尊重する。

**【設問5】**

**解答：1．患者のQOL向上**
*解説：* 転倒防止は患者の安全と生活の質向上に直結する重要な目的である。

**【設問6】**

**解答：○**
*解説：* 看護研究は臨床課題の解明を目的とした体系的探究活動である。

**【設問7】**

**解答例：**

* 現場での転倒状況を具体的に調査・記録する。
* 文献や先行研究を調べて効果的な転倒防止策を学ぶ。
* 患者や家族の希望を聴取し、安全に配慮したケア方法を検討する。